

緊急赤潮情報 4

令和6年7月17日
大分県農林水産研究指導センター水産研究部

津久見湾でカレニア・ミキモトイ(有害プランクトン)が注意密度を超えています。魚介類の管理に十分注意して下さい。

発生場所 津久見湾
プランクトン種類 カレニア・ミキモトイ
千怒崎岸壁 1,100 細胞/ml (表層)

※詳細は別紙参照。
※中部振興局の調査結果による

発生期間 令和6年7月17日～

(カレニア・ミキモトイの注意点)

- ・ 注意密度：200細胞/ml 警戒密度：2,000細胞/ml
- ・ カレニア・ミキモトイは魚介類の斃死を引き起こす非常に有害な赤潮プランクトンです。
- ・ 特に、アワビ、サザエ等では海面が着色する前に斃死する可能性があります。
- ・ 表層が着色しなくても、中層に赤潮を形成していることがあります。
- ・ 午前中、海色が良くても午後から色が悪くなる場合があります。
- ・ パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、畜養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。

赤潮発生場所での対応

- ・ 投餌は控える。
- ・ 赤潮海域へ魚介類を入れない。
- ・ 赤潮海域から魚介類を避難する。
- ・ 蓄養は控える。

